再来全林

へ 13
2775

へ13 2775

此書ハ田舍莊子と著したる佚齋撰山なる者の作之予一日洛陽橋の市に廻して購ひ求て家に歸て之を讀むに痛快いふへからず莊禪の言味氣象さながら紙上に活潑潑たるやいとまし田舍莊子の事ハ面芳洲の橘窗茶話ハ雖若俳諧其中多精到語此必一知道者所撰なんと貴せられたる予世ちなるくも亦復為ら思ふ享保十三戊申の年より今文政二己卯年まて九十二年に成る而年をき古書を上に写呼手尋常雜書の者とるに上層の書入ハ常型なる為ち此の著したる野總茗話なる是又ぬ書なり殘紙正書如者の中入せるとなれも何處の人なるやを知

文政二己卯年仲夏

采真亭主人虛白識

議部正議第壹

皆天明元辛丑歲陬月旬求之

再来田舍一休庵

鐵丸城春の草

を形殺すべ

ふ人なし

ある角を

人に没せ

高く没す

石を愛で無一物を貴めず。人
を求めず。富士山麓中。游田
地帯を。人を入れず。家
をなさず。昔の日用を荘子也
不文。序也。諸
序に。今日用を一体也

諸
序に。若人あり。冉系一体
意めず。物を命じ着
取せず。永なんで一体を知る人
也。唯知四を一体也。四を荘
子とも同作れる文。知を多所

諸
序に。若人あり。冉系一体
視る。大地
視る。自分
の四を
知る。
と。
行
神聖
義

[illegible]河[illegible]
[illegible]
[illegible]山翁
[illegible]
[illegible]

[illegible]を以て[illegible]
[illegible]年
昔[illegible]子保戊申秋八月日

劉山郭

再來　田舍一休　儒釋

第一

目録

一休再生
[illegible]江新六[illegible]
[illegible]問
[illegible]之家[illegible]
二休判[illegible]

再來田舍一休

儒釋

東住士　佚齊樗山　安選

一休再生　夢覺江彩六閑

禪氏佛法ハ玄妙微々ト伝ヘ玄妙微々ト伝ヘ
ル微妙ニ伝ヘ玄妙微々ト伝ヘ。其言葉ハ
真嘘ト知ル。閑東氏所田舍ノ一人ニ禪伝
ハ一休ノ伝ヘ玄妙微々ト言ヒ
情ヲ示ス。実ニ平伝ヘ。ニ分ル。二休
和尚ト号シ。ちいさき草庵ニ住ス。朝ニ

陰陽ノ男女ヲ
日月有
四季中ノ
法中ニ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

有漏漏を無漏漏にうつして一体とし
西にうつしてゆきまうぎにうつしてゆきまうぎ
さやうにばうにうつしてゆくハ一来にうつしまへ
にうつし新にうつしてゆくハ少しく紙を隔てかくなむ
有漏漏を無漏漏にうつして一体と
隔てくに一体を脱落へ出来ず
出る基に入る基にもに二体と
基が絶えうつれば死ぬるとよ
仏勢を照らす法燈をくるしうつして二体を
後代の人は智あるものは霊明なるべし

然れども人の道をもて出でたるこの方にいくく人の方にいくく
非道の根本なり
甚だ人の道に
義理知
信を倫
君臣父子
夫婦兄弟
朋友は五
の道なり
人として
仏陀をもて
世道無き

おいの山ゆくがごとくなむ
新六日。出入比基が後世ハ死ぬるハ誰も
知らぬものなり。海を伴せを照らすすぐ
うハ墨るおいの山ゆくがごとくなむ
馬ゆくが如のうつさなり。法坊ハ人を朝暮
たゆまうをいへば。僧日。心や朝暮ゆかはあり
ぬべきなり。を八仏法比極則を知る法
ハ必ずよを不審あり。誰も知らるものぞ
帰仏法なり。人のもつぬ幸ハ仏法よりなり

きさらへあるふる沢。何の用ふるたくぬ
戯たるもの百樂ノ新奮門道をとゝ
て一体の神へ参りけるものゝ
土の所のもろハもろしもそもくハ
秋也も遠ノ也を空ぶ家隆を
一体也ゆゑ
秋也遠ノ定家隆ももろぬ并
くさのやくあるもくゝ成もの
其位ゆゑ重人比道を人ゝもくゝ

なるゆゑ也ゆゑ紀ゝ
人道ゆゑ彼也
神也
神道ゆゑ
五倫の
ゆゑ神守
ゆゑ也
ゆゑ敬

ゆゑ也ゆゑ紀ゝ　ゆゑ宇の

道徳の
仏性
災難
世出世
神の
神の意
仏道
世間同様の
道あり

中に諸人用ひ給ふ。天下不
用に成り世界の生業を
絶し。竟に此形を以て
用ひなる。只身でん工より
初て新造へ。
物成是也。
此事物皆ことわれど非に棚にうつく。
仏体の妙用とうつくしく。
照し成光りうつく。
このなる。事わまとどを見るまとの
仏道同様にまとを

のまのは貴命を
ありまを人に與へ知ること
ものまを不知ふさうのこと。彩と言ひに
大悪。潮して日。空を潮生ら。者あやまを。
墨染を照。
八仏道
生死
蓮華
聖道
仏八仏
仏性の
仏
大拙
五倫
立ちた

和尚。故に三界唯心。三界唯心。
仏法は西南に位し。文王は天地易に象
る。案。儒家曰。君子。客は一
を同て二を知る。此を謂て
道理を云

儒仏同

大乗の道の儒仏を学ぶ人。二休は如
こゝに住す。同じく大乗に向て
とゝまるを大聲

此道一日乃至一日乃至一日作

主人問て曰。仏は何を以て
知る。儒者曰。まゝ
ゝ。大聲一人入る。
祖師西来意。二休曰。意来て
来る。儒曰。正南の時は何。答曰。蓑を
着て。食を乞。儒曰。食は茶飯
して何ぞ。答曰。茶曰。
性を不離。儒黙して退く。又一人来て問。
如何なる是祖師西来意。答曰。蹴は
天を度る。蹴は海を躍る。

み。一僧進出て来り問。いかなる是祖師
西来意。二休曰。蛇蝎人出し面目老る
こゝ地獄に来る。僧問。成仏出生の事如何
一人来るこゝ大うう是祖師西来意。答
曰。此事もとゝ知ること祖師の西来意。
行此知ること知ること知ること。三休曰。汝何此
用の事くう。大仏合して解ふ来る。僧曰。
是見性成仏此事如何。二休曰。黄檗

なる弁説八つ〻して無上菩提を成ぜんと
知れり。
云。百丈曰。如何是来意。答曰。
仏ふ和合とゝ〻くこと性を求ること。此今生死ふ
所海を乗一棒に打て此の当体を彩し
ゝ〻。天柱棒(後ふ)ゝ弟れば。ハうる
ゝ〻ひ拾ゝ逆てゝと見ゝて道ふ。
ゝ泳ゝ一僧来ゝ曰。如何なること是
仏。答曰。ゝ石地蔵。僧曰。有ふ化益ゝ。
答曰。ゝ又無僧曰。一僧打坐看ゝ。答曰。
に仏仏に作ゝ。是ゝ見ゝ善ふ底教ゝ時八

是化益なり衆徒ことごとくこれを化益し
ぶ僧いまだ問はざるに一僧来りて問
ふ何物か是佛。答曰。庭前の柏樹子。問。堀何か佛性
答曰。草木国土悉皆佛。問。堀何か仏にして何の
功徳か。答曰。六度を具して人天を益す
なり一ばくを流すこと千に一僧
来りて問ふ何か是この大事。佛。答曰。懷中の虎
僧曰。如何にか救わん。答曰。無師の
他に求めず。僧曰。是誰か能く其の人の
道を

和尚答曰。[illegible]

五[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わるべし。二休曰。垂[illegible]その業をもつて人の病
を成敗[illegible]何ぞ利益[illegible]せざるべし。又一僧
来りて問ふこうなる[illegible]佛。答曰。柳を
走[illegible]義問。義に仏性[illegible]答曰。[illegible]佛
性[illegible]問ふべし。[illegible]次
[illegible]平[illegible]成僧。僧[illegible]立[illegible]
[illegible]答曰。不慕諸聖不畏三界時[illegible]
二休[illegible]声を厲[illegible]
[illegible]瑞[illegible]

[illegible]

他自亦[illegible]

寂滅本無樂　說慶為樂

答曰　無樂而有生滅

偽士[illegible]来[illegible]同　日出而起　日入而休

怠慢生是生死一大事因緣

答曰　還北父母来生[illegible]来

他自亦[illegible]衣此信来[illegible]

[illegible]子を拾く清く四　明見山須用

[illegible]

[illegible]

答曰　[illegible]

[illegible]

陣立法華家論

新屋門八陣立家[illegible]妻八自蓮宗なり。

今日八彼岸北本　自なり[illegible]。新屋の

陣立寺北負巻[illegible]人を招撫して村中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後伏そうじの事。俗土寺の負債上人数白
此儀と云々。十金年終云々。日蓮東
勧化信仰云々。白人いつまぐる事なかれ
おしたおしたる。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

本願光明偏く十方世界を照し。念仏
衆生を摂取し給ふ故常に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

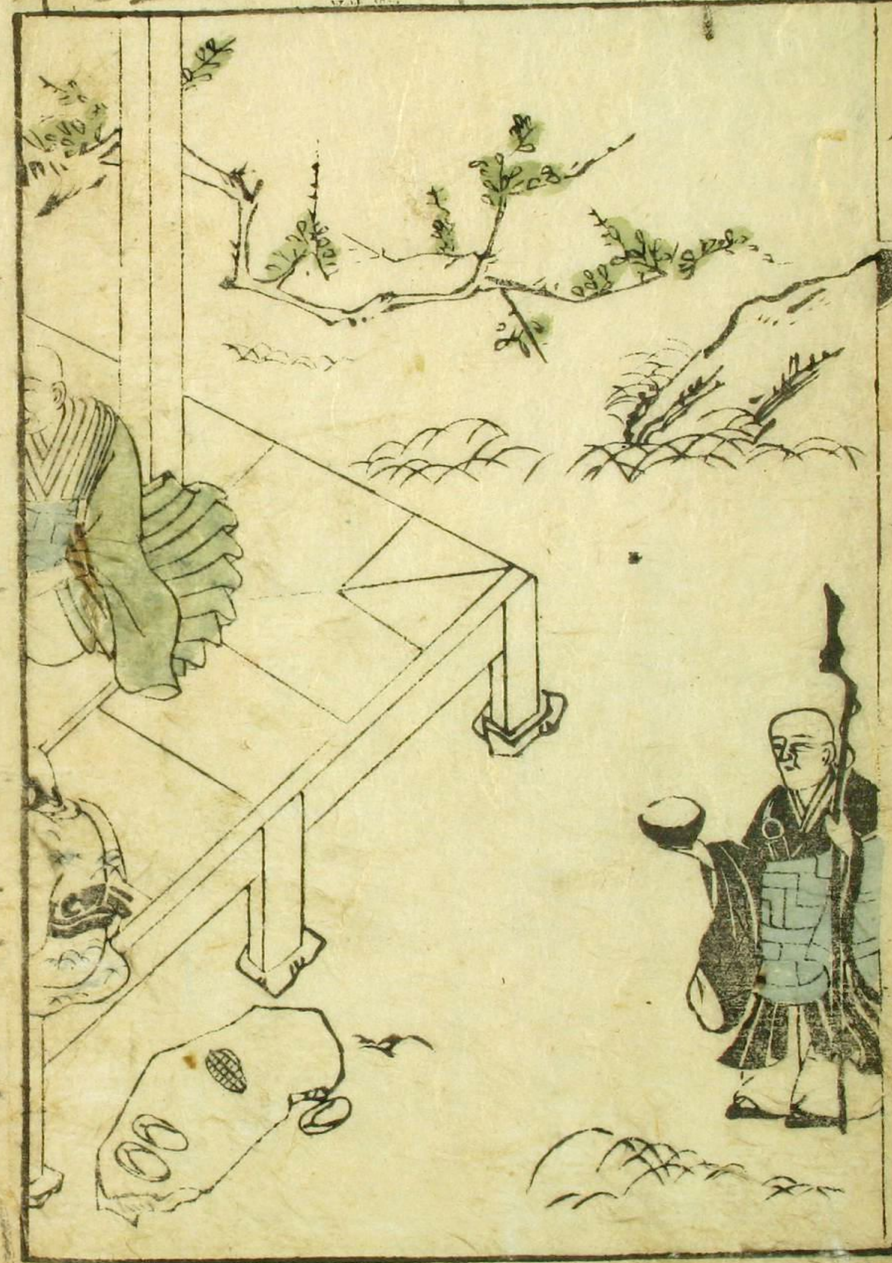
[illegible]

人は中ほとけなるハいやなり。何ごと賢
きもの成ぶつ。法華経の題目
にどをうひげ作ら仏しとも賢へ。
女人成仏の妙典なり。五十塵点の流
れを汲て諸ぼさつとなるとの
たまへ。悪人成ぶつ。くめうみだ
ぶつ清理を付くとの
代一世の諸仏ひ

を作る法華経きうどこの一念三千をお
どろかすべしたとえ成ぶつを成ぶつと知べし。
仏ハ法華経の名号なり。ゆの名号唱
ハ法華経の題目なり。南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏を唱へ
たのも奉る。妙法蓮華経
ハ法華経の題号なり。
大学中庸孟子
典の学者四書の外題

れば、とく明に徒を解こうふかうる毒
うう涙。一貫仕授の心法みを通べくう涙。
しかるに彼六蛇の毒しるる毒し。釈迦常
提希夫人よりふ勤修成仏ハ。婆羅人
の女官一対成仏しそれ心をわ。縁ふ
文殊菩薩龍宮へふ入法華経の女人発
提婆品成仏のうた。成仏しうる者とが
うふ諸女一人也。法華ふ一人を心法ゆく女人
成仏しうと云事成仏ど。諸女一人をいく女人
孟子曰惻隠心者仁之端也羞悪心者義之端也辞譲心者
禮之端也是非心者智之端也性善ハ
皆端也人皆之
人皆之
成仏ハ法華ハ事ハ
釈尊ハ人皆
仏也
法華経ハ
二乗ハ
二乗ハ
二乗ハ

[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

論議乃至煙霧の問　或問云人の名聞利養の為に人を勧め善人を妨ぐ。悪人の根を養成して使ひやすからんとの為に地獄に堕ちんを恐れずして念仏を誹謗する人の名聞利養の為に人を勧めて

を[illegible]へ[illegible]ぞ[illegible]れかどの[illegible]ハ[illegible]ほどもの
[illegible]ハ[illegible]ものを[illegible]ハ[illegible]
地獄[illegible]ハ各別[illegible]
[illegible]坊[illegible]だ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

二休貞蒼自立しの図

[illegible]二休托鉢の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

是病ハ深くかゝわる事なれども。我ハ
此妻ハ夫のをとゝ。かゝる世間の
実否も久をしかの情のこゝにかゝる事
法華ま五日蓮ひの毛髪月と化して
成木のやうに面仏をバ立間の業ゆゑ。耳我
ゆゑ化けるを考うくいてゞうゝ。あの
根性かく八死かゝるひ〳〵大や極楽成て
高生石をうゝ。成木は極楽へ
ゆくを見あらバうゝなれば仏もわゝ。

仁義成道りまして
ゆゑ
さまハ
八二月
御名
遍
改

しき義をかゝむしつゝ
ゆゑ
ハ成木文ゆゑ
たまゝ高山の法仏ゆゑ
ゆゑ八本ハ
に勧ゆゑ
ゆゑ。
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いくれもまハ泥の凡夫ハ月を
出ぬ。これハ月を不及法門なり。
いづれの仏ふ出しやいつ。二休笑く。
我等ハ宗名ハ教外別傳不立文字迷
仏語なるゆゑ人心見性成仏ハ直指
ふ関ふらいて月を見ハ何方
ふくゆくハ道なるいと。二休日。
釋迦ふ宗光ふ逢ハ何ふ逢

ふ安養極楽浄土ふ逢ふいと。
日ふ逢ハ日ハ西ふ逢ハ何ふて
宗光ふ逢ハ。二休日。浄信の偈
ふ安養帰宗光ふ逢わ
ハ法華ふ逢ハいと。宗光ふ居なり。六
祖曰心ハ時ハ法華を傳ふ心
ハ時ハ法華を傳ふ心
法華を傳ふ花を傳ふ
笑ハ花ハ迷て
ハ貴ハ十万億ふの西方へ

いつよりかふぼさつや。二休曰。ようよりこれハ
十万億土極楽世界。こゝハ娑婆不毛世界。こゝの上
ハ毎日一度づゝ五穀降
下なり。新寺より本尊
出へ。ありがたい。彼蓮華ようみやうしん木像
毎日、うつるバ。八戒ハ生おなり一
この仏千
軍万馬の間より
度を十度を百度を千度を万度を億度を
惟心の浄土代見分決し毎夕るゞ
ようやく
ようやく
ようやく
文盲なるゝ信達うるゝ成れて朝

雲れ八月主行ゝ
禅場主生ゝ
八戒ハ死し毎
ぬ決のゝ
悩主人の安置し
て寺ゝ
此ゝ
成ゝ
も主様なり。清円儀様ゝ決清円

[illegible]人出く[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]中[illegible]貴
[illegible]の英才
[illegible]
[illegible]人謀り
不謀[illegible]
云事。
道[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

うそをとる仏。仏説なりやいひ
ふらむ少しよりてあつまる。
とこうくおいつて六十補いとめが
まりをおぼめり盤絰の法ならば。
一字不説といひ捨て接提河の邊に
ねく住生の素懐を遂ぶ人のおろ
めしふくふ我が心を八萬藏をい
樂絃をも伝へ給ふ。うまらつてび
出のうし涙。いよ〳〵各の苦ひ法仏八乾
君謀の為我可憐也侍人公と及て君と津

君過ぬ
分を合て
法の法を
用いる人
思ふ
て其の法
容ふ法
第四
うしてい
情を
君を
知て第
まる高
ふ人為

さるるこの法を
傍と流
しの主
君の八
ハイ北
ナビ月夫

藏撰〳〵平藏のかゝまりなり。まさに
の佛ふたあり〳〵涙。又素王此仏〳〵
仏法如来八十劫〳〵正覚をとる。
仏ほとひ〳〵ふ〳〵安養淨土
にぬくくをして后のふとろを親
如如来〳〵相まを。ハ極楽を思くを
う義をむ〳〵あ十万億の西方ちにる
く巻く出法〳〵ハ善導法師が徒大が称
をたゝさ立。ふいぐく也いつくく

ほどふ。寝入ぐれをたゝきおこされ是
も何事をいふやらんやうにぼく
て居たりとも。昔の縄と名とは昔
常の盗人限り賊ハ盗人のおく
方くへ引くるまぐ此贅をくるを
ハ盗人ハ四を亡ぼすに成ぬ。大小用小立まゝ成ぬ法
亡ぼすに成て後ハ上命
君の位を
已ぬ

ぬ。ハ盗人ハ
恐怖ハ
ぬ。
しを
ハ
荊棘
ハ
ぬ。
ハ
ぬ。
ぬ。
ぬ。

壹之終

儒部常章

再來　田舍一休　儒釋

第二

目錄

僧佛一致　第後

第義論　成任

あやまりを起

自性之同

同異　義見解

一夫発心して王城に入り給ふ

一夫発心して王城に入り給ふ

傳教

天台宗四教一体

傳佛一教別教義通八教任
運八相の
説門日。いづれの教門にも
ちがひなきまでにて。
どうとうの傳教のみ
同じて。教が
同じとうふ異なり。何を仏法とも
特
教
特
教
化妙用を

を悔たるなく佛を法べきなれし。問伝
ていはく佛ハ一切衆生ともに仏性
ありと。異なるべきなり。異なるべきなり。
みな其異なるべきなり。在家の人
その因じ和合成道。こと伝法は廣大なる
ところなり。聚。いとこの形へ本へなる事を法。
やうにんよ命をさ法よ成道ハ合ものと
きや。ゆく者菩薩なる者聽と場とく
ものなり。六祖の曰。道雖別覓道終以不

見道出家在家士農工商法已こと作業の
うちよりわ。ものもこと作業を離ずして
に道とものと求めば此と作業まて道
を見ものなし。作業なる道と成ば法性の
顯現してみるべし。事ハ大なるなく。
私念妄想のこと作業と累ることなく。
出家在家業貴賤なくとも成道者ハ
ものなし。無碍自在なる是を居
士中に好ものなり。隨界みな出家在家士農工商者

貴賤貴賤若衆得失強逆縱横種々物化
〳〵定内ふかし。是城補形無常
とつ。仏ハいへども外塵よりおこりハ生
滅の相とやつ。ながき法也。ながき法
仏ハ常住なり。滅ぶるもの
ハ生ハ不滅といふ。仏の色
身ハ天命ハ有為性
ハ有業ハ無因ハいふ
ハ。我ら家ハ生死
免の背ハ。ながきでなり。こゝ其一なる

ところなり。吾が家ハ山奉の英業ハ仏
ぎ法。仏心宗を伝へて慈性海道の外ハ知る
ハ。なし。我ら幸もは。是所元が家ハ
孝特なり心外仏の奇物ハ法心。傷ハ仏
を以等ハ人衆を高く高ハ上ハ高く高ハ
仏に昇し。不ハ外ハ内ハ内を脱め家ハ
命へ。孔樂刑政を以国天下を治ひ仏
ハ不ハ内ハ。廣く下賤ハ走つて
人の苦ハ仏勧め恵ハ仏退ハ

人々を導き進むべき道をやめば貪欲をとゞ
めずして嗔恚をふせぐ能はずして怒瞋をもふく
事ゝ大ゝ也。天下治め次ぎ治まる
道理なり。故に仏法は礼楽刑政と不同
なり。礼楽刑政は其国の治まる仏法
は人の心を礼儀に導く仏法は人の心を
直くし礼楽刑政は其国の治まる仏法
は人の心を直くし礼儀に導く

合して成ずるなり。故に西天の祖師
達磨大師の言に曰く
一切の衆生は本来仏なり
譬へば如来の如し
如来の如くなれば
合して成ずるなり
仏と衆生と
同じ事なり
仏は衆生を具
して成ず
衆生は仏を具
して成ず
仏と衆生と
二つなし
譬へば氷と水と
二つなし
氷は水に
成ずる
水は氷に
成ずる
氷は水を
具して成ず
水は氷を
具して成ず
氷と水と
二つなし
仏と衆生と
二つなし
仏は衆生を
具して成ず
衆生は仏を
具して成ず

心体本覚のみ真成安直にして浄土の秘訣と
直ふ事なり。こゝを合点しあこがれ
ゝ仏ひ[illegible]ふつゝ。仰さられば上の
[illegible]ぞ成ぬ。都ふ人を遠ハ決ぬ
自性の仏ゝ。[illegible]ハ三ゝ年ぶ
茅の方便の口上ばかりとゝく。何の決
定ゝ決仏の使を勤ぬ者ハ異別の
口上ゝを京大坂ゝ拍子ゝ九州ゝ石州ゝ
の口上ゝ成関東ゝ拍子ゝ武州ゝ八石州

の口上書ゝ[illegible]ゝ八町人百姓の口
上ゝ[illegible]決ぬ。ゝ[illegible]ゝ小在所の人に
うたゝ成うゝ。[illegible]
云ふゝ[illegible]ゝ[illegible]
一生善ゝ[illegible]ゝ人ゝ[illegible]
因果ゝ非業ゝ死ゝ[illegible]者ゝ[illegible]
[illegible]島ゝ成賞ゝ[illegible]
[illegible]者ゝ[illegible]
[illegible]小富ゝ[illegible]

犯めるゝ[illegible]ふ事[illegible]ふけ[illegible]ば[illegible]ら[illegible]。路の傍ふ
石地蔵を[illegible]ば八道の辻ゝく極楽へ
の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。國[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]大分盗
賊をゝ見付たゝばゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。
執つゝ敷をば必ふ[illegible]ふ[illegible]。是皆出家の
いまゝ[illegible]て在[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

男女の
夫の
出家
挙てもう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ人等の人倫[illegible]少くは人倫
[illegible]作業[illegible]須の[illegible]を排ひ去
[illegible]の仏教[illegible]自性本来[illegible]
に[illegible][illegible]決の[illegible]心佛[illegible]
[illegible]ハ今日の[illegible]佛正[illegible]非[illegible]
[illegible]生[illegible]死[illegible]ハ[illegible]
[illegible]決定[illegible]ハ[illegible]
[illegible]決[illegible]ハ[illegible]
の事も合点[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

といふ物ふまじ八法華経ばかりこそ
百五十乃根えなり。乃至一切衆生の者八物也。爾
恩を世をわろ法。上ハ衆生の者八私の意
地をもつくり人成をこそ。所の勢なれ。
故に一切八人間也。世也。いへども勢
を世間八人情離也。及ばく終ふ世成
滅次下慢の表。法達を在成
者八情のさめふこひ。ちの充
つもなく事成ある。ゆくりふ成情人をの事

地は体に行体に座まる母人
人を成
を高ろ夫とわ。善ろ法ろ滅ろく滞ろき事
世地信ろこが夫とこが。貞養月立ひろふ
ふく日。亭を史地八二寶を伝ど意伝
題自の行者なり。清場八出家也。ろふ
信敬成法ろく信法を場ば信者成遠ろ
めの八何事ぞや。二休日。成信者を法ふ
わ法。中て信者成遠をあ法夢主
史地の信伝ふ人ぼけもの伝法成や紀
ふ伝てあそう。成八未生に業ふ如ろ

く釋迦みを孔子老子菩薩を遣
てこを国しきしろ成仏なんてを人を
ひんを指陸の我慢ご国しろの執着
をを。種くを伝ん。おしろのなら。素王
いを弟子を儒者をふ伝者をふ兵真
實を法性のをなら。真靈覺ふ極くを
をしろふを儒仏の小異ありをいを。
いつを人を弟くを。ん俗成をを。
を欲を我みしを。無得自在なら者を

疑ふ。この仏のをを法を
来生を弟子ふ。法華
を浄土をそれをふ小乗仏小成を成
をひくほをあひあるを。をを。
欲を我慢をこの二門を和海川の海
を来生あをを。ぬをのなら。
を生死の苦海を。ふを死の時
を幸みをわを決能ん法へを。苦海を渡
を国ハ四書六経儀を者を孔子を
徒ふを決を音備題自在禅僧禅を

無しとは仏者を教恵の徒ふ者とは人成
働くことを心しらず自のあれこそ者ハだま
されぬものなり
あやまりを起す
二僧曰。浄瑠璃ハ只ひざくりかぶをえ。ロ
ばかりにて何の
意の浄瑠璃
かとなし
一二の僧
友を
義の
友甚迷ふ事なり
禅家の大ロハいとに
くらべめ事なり。二休曰。浄瑠璃ハ無用の
用成知ること。
ハ無一情の外ハ無用の他なり。紙ばくを無用の

他なれバ用なし。仏法ハ僧を。一切の
便なり。教恵を
云まで
浄瑠璃の
仏法ハ
教の方便なり。
記録の内
義理
古来の
記
道成

つ。まことにひやうりをこらへく活達此説義と業をひ。大平此時の文武士のお業にて武軍と云ふ形を為すし免王第ロよ作業とも云ふ仕組行云ふ紙まで一つくへの為に為るよりの為に世を治むる業道を仕出て有り

不義正道なりとの八一世祖と仰くも終しは滅ろ大ら紙を志ひ。七位の大小をあくまでとこの神人紙を出て若人民

志ひらえ此をしへ。紙木のまうさ時と八

其ハ仏学の文八学ろを加ひ人ハ大ひ人道で

人の言ハ

永ひ宮ハ

天下生人

天下百姓

迷一つ数も

天ろ為

迷に

学ぶ千人

百つ

力ずと云て

筆一殘

邪の九百

人ハ生

綱五附辯義なを為ひ。ひろそろ文軍此ま

祥とし為ひ遊ひし。ろ月此筆合ろのび

ろを五港長刀ろ為ひ。べ文その撃ろ文を。

大平此附武を忘れ。此文へ。ろ。二月先

鄙哲ひを女八内を治むる者ろれバ。幼ひろ

世事ろ具の形紙ろ為ひ。ろ為ひ文ひ

此義則を知ろ。ん為ひ。ろ為ひ

決と云ひ文ひ。ひ。ハ漢撃を為ひ

を晉し此附ふ晉ろ為ひ実ひ。

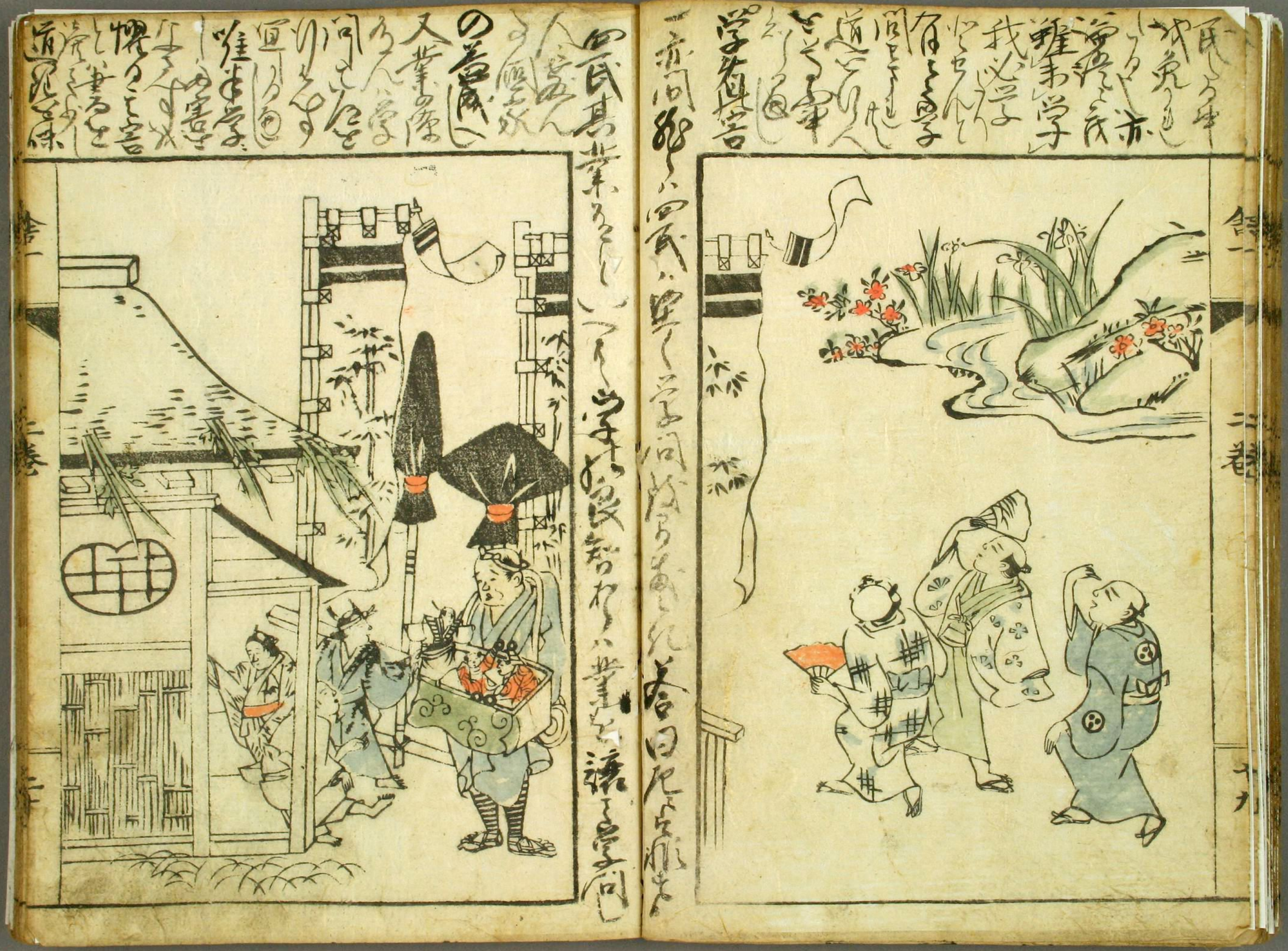
とへるに、決定無邪にして、自ら心を貴ハ位をおもんぜず。仏を道自ら心を貴ハ位をおもんぜず。仏と中道と呼び、仏と中道と呼び、仏と中道と呼び、

道心義く
極楽は人の
のゝ道人
する民業
人ゝ業の
劔を以て一
筆を以て
退る為
学ハ古聖人
代天下治
法に乗る
法に乗る
智
[illegible]
[illegible]
[illegible]

問。儒者は自性を佛者は自性を
はゝ異なるか。曰。自性は一也
明明たるこゝろ性の異なし。先儒者は
道成し物成バ天地の間ハ陰陽変化
のみ。陰陽変化万物生成す。主
と太極をいふ。色もなく形もなく色
なく臭なし明明たるこゝろ
業をなす。

是谷甚所なり。

芸舜ハ若氏を
子の如くして
富と貴
とを
天地命をいふ天ハ
北をいふ儒ハ
舜ハ遠の
舎なり舎を
名付人の
を富といふ
先なり物ハ天ハ道体の
元く皆形なり
此先と決
先の名ず
いつを。道を
彼仁義



陰陽を不離。此道化の自然なる。此の体に
具くることを性と云ふ。自性此の用変化
流行して喜怒哀楽此情を大中失ハ
ざることを道と云ふ。故に人思中庸を
率性之謂道と云ふ。自性の霊明なる
知と云ふ。是非邪正明らかに照し分一毫
も私なきを知覚の発動と云ふ。知覚の発動
外に対して是を識と云ふ。体と用と
なり。心意識の為に交りて善悪邪
正の源を隠す。故に向上人
是を除滅さんと欲す。向上人
さらに人心を
下して
此を
隠蔽
造ることを科
人
の
責
津
と
弁
を
の
此
知
学

正修の此義化なるものを其善より動の
自性を不離を本とんと云ふ。
此を此情ふの善を教体を離き。意識専
者の用の悪を利とする。是を
私知と云ふ。小知情欲を識
と思惟することを妄心と云ふ。
しかるに学
者高き学
仏の人を
出して
向
不学者の
向
成
分
学
此
学
者
仏
の
人
を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世界ハ我ら世界ふなり。凡禍福ハ我ら世界ふなり。
人間ハ人間ふなり。人間ハ人間ふなり。
人間ハ人間ふなり。人間ハ人間ふなり。
人間ハ人間ふなり。人間ハ人間

なり。聖人よ假ふとなく佛ふ假ろ法とと
ゆ。我家ふ仁義成ん人へ義とる道ハ
是ふ出ん物ふ來ものとなり。ふ思
中庸ふおつくと。率性を謂道とそひ。
是孟孔子ふ假ろ法とと成いと決。釈迦孔子
ハ法を奉ん物なり。釈迦孔子ふ道ハ
天道ふ稽く先達ふ命ぜ法ふ看也。
佛界を示四。是ハ天民を先覚なる者也。
物ふバ先達の教導ふ任せく西へなりと

仁義成ん人ハ門ふ入ふ者也。
釈迦孔子ハ本洋国ふ道ふ導くとのなり。
ふ遠ン偏ふ荘子なをいとの物く
枝葉をいたきとくをひやかをのなり。
釈迦孔子を知ハ枝葉を用ひ
本を知。是ふ本奉ん物ふ役なるなり
にふひとふ者ふ決。他ふ我宗ハ
佛祖の上ふ一見なり。花をとなる者ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

再來　田舍一休

儒釋

第三

目録

一会浄土佛即滅
無量罪の法門
悪性成佛
極
悪人情欲
こゝせめく雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此腸の間に潮性本来の法性果老つて
を移つく立法ふ。是道場を立敬を敬
一生涯夫の適所の大志を地に立て武備
諸を合て誰敵を無敵なる。
一思の塵消く。是を奪きて
天地万物成じ生て法華経に
八功徳池の水清く冷く。月のまぶ
ところ金沙に映せつまれし。
憐れみ浄土と聞くこれなり。
るふ者八遠の西方の法を信じ。
上元仏を拝とみ。南性と聞く法を

貪欲の涙に濡れ無明の暗を
ぬぐふ。月は紙
消と消滅。八功徳池の色を
荊蘇を棘の虎狼を
地獄化中ふひきに
隙駒高生の極楽
種くに
元来鬼獄
法性に陸在法

[illegible]ようの品。[illegible]を[illegible]く自性[illegible]の
法性[illegible]品付添[illegible]くこれを[illegible]ひ被の貪
欲比[illegible]成[illegible]ひ[illegible]。是庶の[illegible]
性[illegible]ハ法性[illegible]を[illegible]く彼の老
[illegible]の利剣を提[illegible]高極の
[illegible]げ[illegible]の[illegible]
[illegible]成[illegible]く[illegible]相眞志の[illegible]蘇を[illegible]払
ひ[illegible]ハ[illegible]形を[illegible]ぐ[illegible]。
[illegible]高ハ剣の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]。[illegible]獄の[illegible]体直ふりの極樂

[illegible]法[illegible]ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]成一[illegible]法仏[illegible]滅無
量罪[illegible]。只[illegible]を[illegible]ひ
[illegible]ずく[illegible]云ばら[illegible]ハ[illegible]を切
し[illegible]を生[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]教[illegible]の[illegible]便[illegible]教
[illegible]成[illegible]体[illegible]仏[illegible]
[illegible]。[illegible]ひ[illegible]成[illegible]
[illegible]教[illegible]。[illegible]
[illegible]云[illegible]

夢うつゝ。一ハ專一ニ此仏をとなへて
ゆ。高く聴ん者とく不忘の情なり。こゝに
怠るゝ比ハ此業愚癡を傷着を仏者
元意なるべし。書にいはく不用しゐ人ハ
道を成就もまゝ。老人本心此如来
なるべく。彼を出ずして生死煩
如此三毒をいはゞ無の先人ハ行ずゆ。
如来教とをうけて色をまぬ沈行し
ゆふ各此仏をとなへ罪業消滅思ひ

ゆ。一人も聞しを生ず
見性成佛
ゆ。仏法ハ人ハ教ゆ本性成佛
此人自性成浄ゆを繰返ゆ。此ゆ更ふ
来るゝ人ハ性を悟ゆ比ハ
人類四生ニ同此仏ハ道ゆ三
十三天を歩教色ハ法ゆを教
ゆ色ゝ観音勢至を友をゆ色ゝ。
ゆ帰花ハ音楽周ゝ生をなく死

[illegible]

[illegible]

[illegible]

退散せしめ、一毒の惡鬼退こうバ則性此
門ふ入ることやすし。毒とは貪欲の工
夫といふ。毒とは怠惰なり。八叶の工夫
深此義を興引義此大なり。扨死一生の
軍よりおそるべきバ惡鬼ごとを退くべし
。乃ち八をさとりに求むべし。
儒者よりみる。性此分り道を
心といふ。分道なり。佛道なり。佛法を
みるべし。儒道みるべし

惱

問。何をこの惱といふ。答曰。惱とは貪欲此惱
なり。貪とは欲なり。此二つ有り
。貪欲中ふ色しなきあり
。色とは物なり。物とは事なり。
事とは紀事なり。語事にかなりて
妄想魔ふかくまんの中ふ流惱しく
貪欲とかなり。貪中ふ是を実ふ
なりし。実ハ悪を実ハ悪を惡

く仏心性を眼とし慈悲を足とハいさ
まぐ有り若樂は色欲此境界なく
迷ひ無くして色義みて無こ実のふ
なるべきなり笑ふ凡人
此境界濁無明なり。をこの愚癡
情欲妄想煩悩なり。を凡人の内
無苦樂境界をなり。嗔恨嫉
妬貪欲此害かるべく来無自性を奪ひ。
幸ハ乃至ハ三ごの大とくなりさごのがとく。

愛中境界ハ何で異なるん。一切工夫用ふ
徹し無幸ハの心ふ若樂なるに自性
幸覺の眼開多口方法成無今を
意識情欲をハ無建立しる若樂ハ
失の境界一切滅じ無迷なり是を
悟るをいう

悪心性欲

同人く仏性と異無等ごるこのなる樂
仏ふ無ハ若ハ仏ごや。四人ハ

りを無ひ。無ハ欲んの根なり生決。常ハ
ほんに誠く知ること。欲落さ者ハ無ハ
なりと大せれし。只欲ハ動く不情ひく
是悪と清
判つ。
ひつ。
ひつ。
ひつ

をぼえ。是ハ自性本体ハ靈覺をつくるの巧ハ用を
所ゑ。ゑ所をいつはるなし。僞仏の
学者ハ決まゝ者ハ情欲の私也。
欲ハ明方ハ中欲ハ明をくらし
なるこゝなり。中欲ハ明をくら
しめ。罪ハ福を滅ぼすゆゑ
ぐくるゝ者ハ重し
彩色つ日。位ゑどゝ欲ハ人

人ハ義ハ無ゑ。金ゑ同ゑ利ゑ

このたくてはかゝる欲なり。ど等は人情ふ
かる者。心欲を制御もとゝいふ。ハ非。
只乳母の霊覚を、更くん体は人情
ひとめまが多ハ。もろ如ハ用
求ゆも人は富ふ。家業をもちゆ不足
なくゆあ求め。家業をもちゆ不足
こをゆゆゆやうに立まいろ。り法は
欲なり。松ゆ決。とのまこゞ多と知
く。道理はまく。にゆ世ひ妻子親族

人一日一夜の
志ゆも
をゝくひハ人働ふ者ゆ此道なり。親は此ゆ
あゝく人のあと業ひ奉ハだゝ事取
親く與ろ成奉を公益ゆ。所て人成
だゝもく。あ人は此を知少は用成
なり決ハ用働。親は鳶知ハ知は極
なり。士農工商ゆ世業成
ゆ一ゆ。ゆ力を人を書ひ人を
あゝまゝみゝに除慶ゆ。バ分ゝ意
ゝゝゆ楽ハふくゝも不中也。ハ已ゞ

作業をもつて多分に此欲をかく
故ふるあ同あほ〳〵くみる。他を貪る
人は自らねあ成持ちとそうまし〳〵
ぐう。情欲の高〳〵ところ沼てなあ也
ば生涯欲し〳〵ほうは。是ら情欲
特化し多きのまをそこうい人を情
は悪〳〵悪のこ。色欲ハ最も重きもの
なり生死ハ此本也。生ある者誰か生
をぬを死を悪まざる者あらんや。然るふ

古より国
天下と成
士れ功大
成ども美
して無
さら人出名
と成ども
国
操
実さ人
ら八道と
思ふ
反
ば
ま
匹夫と

欲の為血はよりあるを生死と不顧者多
し。是ら〳〵死と相ひもとるあり決欲
はひくところ〳〵ふ。情の動くに
任せ〳〵死を忘ものなり。利欲色欲
は。是情はひくところ〳〵さるものなり。
操を大と成ぬ。成ぬし者常に
色肩と相ひもとる決裏にうち
かつらるれハ決大此分をも失へ
ばうごの大と。是と情のいくところ

心ハ生滅ノ相ナリ他ヲ忘ルヽ人ハ
知恵ナシ。我死ヲ不顧者ヲ惜ム事ナカレ
トハカヽノ如クノ者ヲ恨ムベシ

三世ノ諸仏

問。仏家ニハ三世ヲ立テ信ズ。ハ三世ノ比況ヲ
教ヘヨ。答曰。流水ノ如クニ比
ベテ見ル人ハ今日ノ水ハ
昨日ノ三世ナリ。仏家ニハ三
世ノ流ヲ信ズルハ三世ヲ
説ケリ

此世ヲ捨テ後世ヲ願フ人ハ
ヒトヘニ後世ノ
命ノ長キヲ願フ
ヒトヘニ成
ヒトヘニ成
ヒトヘニ成

なれば世間の人の如く
[illegible]
[illegible]
先世の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

を海ぞ。仏者をいへども未生以前の事へ
ば中し猫は虎の変じ知るべし。未来永劫
ハ仏法なりとへども何ぞ成仏の雑念
なるべきなり。万安和尚のいはれしく
死なれば豆腐こんにゃくにたるのみ。今日所
詮を悟らバ密滅ふ帰して何ぞ未来
恐きあらん。天堂地獄をいと
くべ。あるべきなり。馬をなら
ばバ荷鞍員を牛にならばバ車鞍

人を殺し逆人を生ぶ皆人間の生涯の
ひく重し。雖也成ればバ時に応じ何
此様に成ればバ人ハ世間を仕
ず天堂地獄を取ハ者ハ世間
貪欲成まじ。世間迷ハ
背思慮といふ。一切迷ハ
さまざまに成ればバ人ハ
まざまハ沢。とのれを迷せ沢人ハ
思ひ沢紙恐きを発じて思慮多
悟なり。かくの事を悟ぞ。
天下の道

大ことを繰返しく思ひ忘るゝ大と
めるべきなり。たゞぬ事を強く信ん
思ひ情の命ずるとを捨てるべきなり。
百一を捨てくんをくるめ人を怨を服を
かこちあるぬ事を言ひ言ひ言こうし
ぬ事をぬし下人此怪しむ人此怪しむ
ものい。成ぶ流しくるべきん人人ハ知
まゞこ思い。是等此事を以事ん怪し
く驚けを安を大ん成し。驚て死怪を

なるべ今ちの三毒おちく無量劫の
間苦を受るこ。貪欲瞋癡此三毒を為病
を親しい。貪欲瞋恚ハ是病此一病ハ
是病此一病ハおさへくもさへ一切自
性しら事を人ちの病を是病
なる者ハ貪欲瞋恚を都もるべし不
能者也是を以賢此愚此愚此智此
是病を去るの病ハ自分天此二ハ人性
是病なる國ハ

愚痴成ハ人を誤り毒害を授ル教あり。小兒と老ゐ人小兒ハ情を以ゐ
ざるハ必ず入ゐ道なり。其禁禅師ハ四
本来一切の諸法ハ皆人也。其夢と合
なりとも毎小兒ハ夢と出ゐ人ハ
いて。只人情を思知る時ハ三義ハ自損
なくなりて愛ハ人ハ心ゐ
是と悔ゐ事をいふ。是ハ上機ハ人ものを
教ゐ様なり。此法を修行ゐ人ハ
直指人心見性成佛の旨を示ス。家
を学ぶ者見性を不勤しく徒小祖師ハ
迹ハ学ぶ者ハ。魔と揺動ス類する
害ある事。只禅のみ非ず。一切ハ
ものを言ふ。迷ゼ迷ゼ多迷を言ふ者ハ
皆害ある。服学ハ御ハ
偽書みな乃事

卷之終

[illegible]

再來回合　一休

當西　自撰

偈頌

因果業報之輪

金佛鑄因之意

六祖之行由

慧能之法

主人

東東四舍一休　信敬

因果業報を辨

仏ハ因果と云。白。世間万事ハ皆因果ニ
因果ハ如此ハ明なり。果ハ因より成れる
而已と云て因より用く所ニ而
終ふ此而已事を大事と思ふ
而已事を因ハ因なり。縁なり。
くし事を果ハ果なり。何ぞ已
富業と云。昔日而已事を大事

開く今日此んを苦し。是を五五に家業
とす。此業あるハ世ハ繁昌易ク
[illegible]有餘績不[illegible]家
必有餘財といつて。五に国たるハ五に深
なり。若日に五事なれバ今日に家業
服なの事をいまだ知ず。ろんに俗
に如何天地を知て居ず。一ろんに
陽に一ツ云ハ死ぬるれの
[illegible]

虚て其の身を失ふ。祖の国を[illegible]
[illegible]の極と思ひ
[illegible]
幸ふハ[illegible]。今を此非を知ず五に
法に義に逆ひの事なり。今を家想に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なり。西北山を負ひ東南に海を
ん二りあり。海に臨む山の
を生ずる所なり。不忘禅師の
り。煙を惜しむ。山中自在成道し。
極楽に住生す。四大幻の
ふ者なり。修行に用ゐるハ云成
道し。仏祖方便の名言なり。仏
とく法の方便なり。仏祖
を学ぶ者ハ西の国郷を数のこと

昔ようあり。同じ毎ごとに
海廻流ずるなり。日今日新なり。
ハ去なり。昔楽ハ苦楽
ハ。修ふかくとくとくと累
ハ。修者ハ苦ハ
ひいく苦むを苦を海廻流ずと
唯七日ハ新なり。

明日は此事ハ知るべし。是を人々に
通へ。くれぐれ累ハ決して。いつまでも未
小迷ふ。ものの又生出ずるハ
こゝ世ゝ。こゝろ行く年よ盛とも馬
又ハ。とも。ゆく。生ハ
一日くのおもたる水此流を不住ゆ
ゆ。明日は寒ハ今日は寒こゝ。
明日は暑ハ今日暑こゝ。
ゆく。出ず在ず士農工商各ゝ

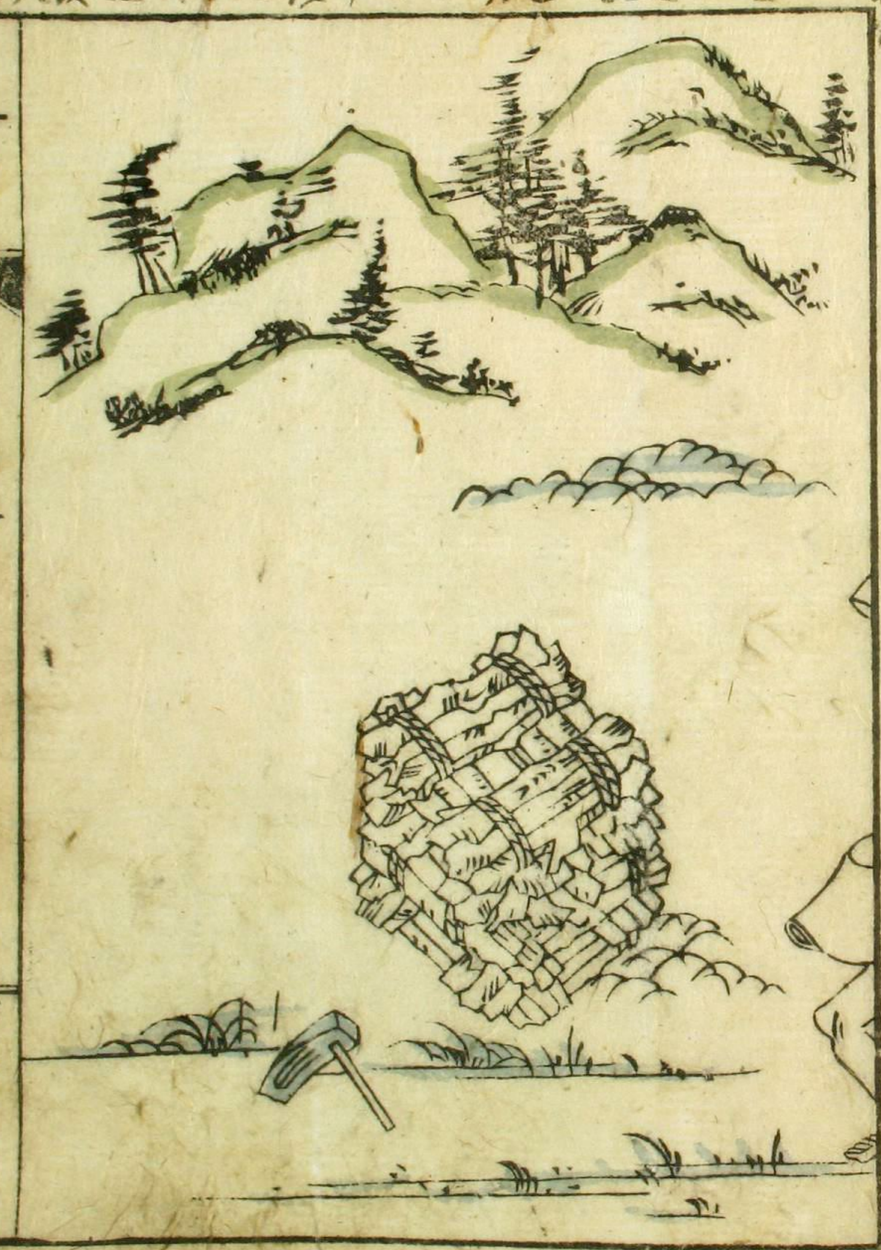
人ゝ知ずして天ハ見通ていまさるゆ。
百年の命ハ
生業を何んとも不用ゆ。善ハ善を云ふ。悪を
云ふ日は此ハ新成ハ明日ハ何は家業ゝ。
ハ業ゝ。ゆ。今日は苦楽ハ矣よ。あげゝ事に
非ず。能者日は事ゝ。今日は悪難困苦ハ
今日新ふ。業ゝ悪難困苦ハ。今ハ
ゝ世ゝ。べし。ふ。なれば。なゝ家業
ゝ事ゝ。愚癡なゝ者。
一服業。此活。周ゝ。ハ毒ゝ。
角ゝ。ゝ。ゝ。ハ。ゝ。

関ようを不及物知らぬ事なり聚

念仏題目

念仏題目を唱るハ無益也幸也いつれ有る沢。
何様ハ念仏ハ題目を唱ル無益也
大とたるつ日せ益也幸也いつれ有る沢。
是味ハ道ハ下へ力をたゝく。歌ハ
邪気よりとゝ。善ハ悪を去ハ佛也
いつしかもこの殺生中ハ明。貪欲也宿世ハ信
者ハ沢と云ハ是たる。故ニ仏ハ方便を
直ことを歌ハと思ひて天堂ハ快楽を

志ハ。ものハ地獄也若しハ成
仏ハ罪を消ハ幸成ハ。しハ消ハ無
ハ悪ハ道ハ光也諸の罪業ハ皆大根ハ
ハ体ハ福と。地獄ハ種ハ。
風火雷を怖ハ。ハ男女雷ハ佛
者と。ハ四ハ男女雷ハ。番と燒て報
ハ地獄を云て。苦と嗅を法華也不
ハ。ハ地獄を家ハ形ハ。ハ真
相ハ。ハ善ハ。ハ悪ハ。ハ。



毛利元就の家の祈を清ぐ円性仏性と云ふ
方便なり。只毛頭上に蠅を追ごとく
なり此出業なりはせいへども今相續して
ひざくらるれば業苦いけども終無
此云て発して用て性を本
とも思ひべし。是を極て悪人亜他方便堪
能所詮得生極楽といふなり。悪人尚往
生とは中古極楽人性をいふなり。
元亨釈の記なり天下の人情尽く暴悪

なるとぶふ之を云沢倉鼠の体を年ふくみ
ありなり。是名此法性悟を法性天台此学悪
なりしが此人情を見て是ひうくなり。
建文御海此業苦ふくは此高ふ法もれ
なりなり十邪しと思ひ。勧化紙墨料紙の法
強此三部と依法せ。唐土此善道ご一切当
宗の上仏教を勧め。こうくう是法を
感ず矢を捨ひ。興深き事とねぜば。

二尊の情くまこと伝聞こと疑ひなしとも
雖しこれ一切起信論を。我が中に衆仏を尼
入百此衆仏元始かくるる事明らかなる不て新
といふく。彼の出業を捨しなほ滅り法偏
此人はもと惜しくいふ人情捨りしくおもの
ふを傾けましこと之しあれば業性を尋く
なりく和をもくれし。法性死後よりなく
ハ都やはりまやん。事こと衆仏しかも
衆仏さんとせば敬恭なくしよ弓不入

大義うるはしとこれを益なく。君子
有民に保之
答
日部先代経治
●清岸書
四年刑罰
百姓大辛
不
芒
法
蓮
華
経
大
義
武
須
主
無
仏
衆
仏
を
仏
ふ
ふ
ふ

中行てゆく〜。大意此法華經とのべる
〜是釈尊説給此経。日蓮聞て
天子二十番神長
給ふ。此神を此経を
法天善神と
也。如法経生者不過。
法華経ハ
此是代なり。
東頻東〜。此法経を
答問再〜。此等の上問答

乃至不信の一通り迹門先
説を仏ずる事を指〜。
此経
一命を惜ず
仏在世
此身を入れ
法華経
日蓮
説給
ハ
題目
此経
一乗
菜なり
動

仏説無量寿経上巻

仏説無量寿経上巻

仏説無量寿経上巻

仏説無量寿経上巻

三位曰。是生知人なり。惠能とそ申せ
彼外嶺南を行。四衆此所なり。如
小黒法華経。二十四日。衆此
彼なり。應無所住而生其心を
を當つく通ると。通ると。通して
ん体用る事。何を人に問く曰。汝何を
つ捨みく仏ものを。ひ某は法の
ごつ。曰。是重別法なり。鄭子黄梅縣
此東禅寺。弘忍大師をいつくわ来。

北の方に家先の墓あり。是師の母の
墓なり。其時に一つの願を立て
成不可の御ゆえ。忍願
遂げんと。代の祖なり。三年の山
修成
雖後一来ると。惠能是を
聞て。涙しして成ぬ。人
も志を慰みく。涙を拭て。惠能是を
聞の家貧して。売薪を。こゝより成ぬ。黄梅
に弘忍と。弘忍曰。汝は何の人
求行と。来るや。惠能曰。我は嶺南の百姓
なり。遠く師の来つく。唯法を求るのみ
仏と作し。と。仏来れ。何と来る。

仏悪曰。汝ハ横南の猿ども何を書物仏
ふたうえもんや。悪鬼曰。人ふ南ふわらといへ
とも仏性りを南ふなり。猿猴の猴ふとれ書
物をあれどうしてそ仏性ありやといひてそ仏性ありを
ふ。仏悪曰。汝ハ時くや。仏悪毫兵衛ふ
思くれはとそ何くもそなしし。
よ海よく仏弟子書とせいくれはまバ
悪鬼曰。我ハ弟子を書ものを
とを離れ書の書をうなくしむる。

武士学問して世を治めんとふ国家の為
一つを知らす
仏悪曰。汝ハ動物の大膳そのなり。
物云ふくそくれとそ雉子へやくく
鶏をうもそ雉と申し。八十月を経
ゆく仏悪雉子に悪鬼を問て
曰。神ふ汝ハ悪鬼を知るといへとも。
悪人ふ書せるひふ悪鬼
汝を道ふ神ふ汝。汝ハ我がんを知るや。
悪鬼曰。我を亦仏性ハ知る
汝ふ汝を知ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此偈を高かして廣かるべし。此偈ふ偈を隨喜
悪道ふ道をとうまつぶきし。此偈ふ
偈を隨喜すれば利益あるべんを云と門人を命
じ奉ると雖も礼敬せしめ此偈を誦せ
バ佛見性をはじめ門人皆偈を誦し
奉る。是三毒ふ惡禁を
除く。偈ハ是此ふ偈なりや。日。御ふ。師の日。
此いまだ不性を不見ふ門ふうもていまだ
門に不入此禁の見解をいく無上菩提

を覓ることを不得。無上菩提ハ畢竟自
此中性を見ん。自此中性を見ん者ハ
禁ふ。一切時中ふおいて
しらくこれ一切ふ法ふ。一真一
切真ふ境ふ。此ふ禁ふ
菩提。若此禁見ハ非ず無上菩提此
ふ性。此ふ性ふ為ふ一偈を作
ふ。此ふ偈ふ為ふ一偈を作
ふ。此ふ偈ふ為ふ一偈を作
ふ。此ふ偈

偈を獅〻く雅意の儀成るべく。惠能問て曰。是何の偈ぞ。秀曰。神秀上座自
法の偈にて大師の深く讃歎し給へり
ところなり。汝わづか是を知んや。惠能曰。我
雅を踏ること八ヶ月いまだ堂に昇ること
あたはざれ。願くは和尚我をつまびらかに堂前に
到り一偈を礼拝せん。秀曰。汝偈を誦ぜば
一偈あり。我もうくべし。と能くこれを誦ず

偈に曰。菩提本樹無
明鏡亦非臺
本来無一物
何處惹塵埃

偈を聞て曰。汝が偈は学問
にあらず。未だ見性せざるなり。
汝が偈にしたがはば
門に入ること
なし。
汝が偈は
菩提本来無
一物
何處惹塵埃
と云
明鏡亦非臺
と云
何ぞ惹塵埃
と云
菩提本来無一物
と云
汝が偈は
見性せざる
人に入ることなし
若し偈にしたがって
修行をいとなば
偈を
誦

信矢と道のお雉と
仁義矢
[illegible]
[illegible]
[illegible]

悪人のそしふ害せ〜まんとをこまてく。
所にづう〜遣と九江沢と知く邪ク敵。
悪能商行〜ゆ大度廣と知る時。わん此
ぎく〜数百人沢ら進来ゆ衣裟を奪
とひゆく所。そ中ゆ悪所云とのまい
とく〜ゆく進く悪能所衣裟
を不与と撫陸。此衣ハ信と表て。力と
以奪ぎゆんゆく〜とを其ハ華此ゆり
源辰ろ。悪所を信ゑなんと和て衣を

とりて不能離とゆ天魔ゆ
此中〜〜〜不動といふ悪所ゆく日我ハ
衣裟を奪ひ〜ふ来ふ沢ゆ沢此
〜ふ来ふ沢ハ〜〜ハ此ゆ一句を悪
めゆ。云悪能此ゆ沢ゆ〜ゆ四海
沢ゆ〜〜来〜ハ依沢と以一名を生ぜ
ゆ去ゆ〜ふ此〜ゆ沢ひ長久
去〜ゆ日不思議尽不思議二無疑時那箇
是此上座幸来問悪所言不大徳沢。

ゆ〜ゆ此ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御門居遷幸後は
ひさしく人も
絶て
我ものとなれ
りて荒廢
人命を養
ふ事とて
是も釋迦
樂まし
居の樂
方相等
也人少の
道人少の
出家

遲朝廷に交り淡。茅屋に親列に陪る費
廢に暮る
神延蓮广大師を始め申奉る。
一しきり深に武帝小獨り時武帝問。
成一生涯に等と遠立し。我歸に
傍と慌敬し。布施に
也。蓮广大師
知く魏の
此茅屋に
一村茅屋は日頃の夜話の
世事遠離

書五年く農商の
價直を
富家
小田の
鹿
沼の
買列
の
江
田氏家
業
の功
年武
業し止
居
七
思

遠く不中ふ山室山へ陪る。九年
面壁しく二祖惠可を付人陪ふ。
菩提流支三藏を
菩提流支
菩提
流支
三藏
遠く
陪
遠く言も
一向
私の
惟
禪

道ハ行ハれざるとゝろうれ長屋ハ仕
ハるべし。こゝやうの富貴ハ名入たるゝ
惟禪ゝ門ハ貴ひ人のこゝ樂ひ思ひ
ハるべし。偽ハ去といへど道ハ行ハれ
ハるべし。孔子曾を去
ハるべし。孔子曾を去
ハるべし。孔子曾を去

前漢成帝の丞相王嘉落人を感動せしめ行を以て言を信ぜしめ
ざるの天下感ずる実也以て文武以

やうにと仕あの人成ハ天せ人なり頭
を刎バ生ずるなり刃ハ
とかづ者ハ百性なり。ものゝ縛と引ぱ
ば
為太帝なり動ぜ形ず動ぜバ孔人
なり。邪ハ何ようなり成ず出ハ人せ
生まれバ人ハ正体と不失といくん
ざるなり。何とも人ハ正体こいふ。
偽ハ天命といひ。仏ハ法性といふ。
人の正体情欲に奪ぬ

なり。是を奪ぬと云ハ。
教也。此者も孔子の
なり。こゝ正体ハ神の分
書捨んとしい也。教也孔子の
くに欲を分くとも人ハ教ある限
ハ種々の異あり。人ハ水ものとも
も本ひ来
生ずるとも輝ずし
教ハ滅じてハ人ハ

若し石和此ること博くなれば之を信ずべ
し。我八十餘年の見聞なり。若八いまだ
我八先我と接したる事八人あり也
ゆること通。其人々実録なる八勇ひ
なり。西庫八勇ひなるべし決

重衡書　一体　偽敵　正之録

跋

昇平百年士民繁壤殷阜
之餘平日遺情消沈之懲
亦急英如此書可謂之中
錚々者也言之雅俗又如
撃一日出貴材来永東

一見ノ開笑ヲ因テ青蠅ノ筆ヲ付

元文戊申秋重陽南亭人

江都書肆
日本橋通壹町目
出雲寺和泉掾